

聖霊降臨後第18主日特禱（特定20）

憐れみ深い全能の神よ、どうか主の豊かな恵みによって、すべての害あるものから守ってください。身体と魂とに備えをし、あなたのみ心の思いを喜んで成し遂げることが出来ますように、父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

旧約聖書 知恵の書 1章16-2章1、〔6-11〕、12-22節

1:16 不敬虔な者たちはその手と言葉で死を呼び寄せた。彼らは死を友と見なして身をやつれさせ、死と契約を結んだ。彼らは死の仲間となるにふさわしい。生活がもたらす報いを期待せず、汚れない魂の受ける誉れをも認めない。

2:1 彼らは誤った考えを抱いて互いに言う。「我々の一生は短く、苦痛に満ちている。死に際して人間に治療のすべはなく、陰府から戻って来た者も知られない。

《6 それゆえ、さあ、現にある良いものを楽しみ、若い頃のように食欲にこの世のものを食ろう。7 高価な酒と香料を心行くまで楽しみ、春の花を見逃さず、8 ばらのつぼみがしおれないうちに、我々の冠としよう。9 我々は野原という野原で馬鹿騒ぎをし、いずれの場所でも歓楽のしるしを残しておこう。これこそ我々の取り分であり、定めなのだ。10 貧しい正しい人を虐げよう。寡婦を容赦せず、年を重ねた老人の白髪を敬うこともするまい。11 我々の力を義の法としよう。弱さは役立たずとして断罪されるのだから。》

12 正しい人を待ち伏せて襲おう。彼は我々にとって厄介だから。正しい人は我々のすることに対抗し、律法に反するといつて我々をとがめ、教えに反するといつて我々を非難する。13 正しい人は、自分は神を知っていると公言し、自らを主の僕と称している。14 彼は我々の思いをとがめる存在となり、我々には目に映るだけで重苦しい。15 その生き方は他の者とは異なり、その振る舞いも変わっているからだ。

16 正しい人は我々を偽り者と見なし、汚れを避けるように我々の道から遠ざかる。正しい人たちの最期は幸せだと言ひ、神を自分の父だと豪語する。17 彼の言葉が真実であるか見てやろう。その生涯の終わりに起こることを確かめてみよう。18 正しい人が神の子であるのなら、神は彼を助け、敵の手から救い出すはずだ。19 暴力と責め苦で彼を試してみよう。、彼がいかに柔和かを知り、どこまで災いに耐えられるかを確認するために。20 彼に不名誉な死の判決を下そう。彼の言葉によれば神が彼を訪れてくれるはずだ。」21 彼らはこのように考えた。だが、彼らは誤っている。彼らの悪が彼らの目を見えなくしたのだ。22 彼らは神の隠された意図を知らず、敬虔さに対する報いを期待せず、汚れない魂の誉れをも認めなかった。

詩 編 第54編

- 1 神よ、み名によってわたしを救い // あなたの力で守ってください
- 2 神よ、わたしの祈りを聞き // わたしの言葉に耳を傾けてください
- 3 高ぶる者が逆らって立ち、暴力を振るう者がわたしの命をねらう // 彼らはあな

たのことを気にもかけない

- 4 見よ、神はわたしの助け // 主はわたしの命の支え
- 5 わたしの敵には災いをもって報い // あなたのまことのゆえに彼らを滅ぼしてください
- 6 神よ、わたしは進んでいけにえを献げ // 慈しみ深いみ名をたたえる
- 7 あなたはすべての苦しみからわたしを救い // 悪の衰えを示してくださった

使徒書 ヤコブの手紙 3章 16-4章 6節

3:16 妬みや利己心のあるところには、無秩序とあらゆる悪い行いがあるのです。17 しかし、上からの知恵は、何よりもまず、清いもので、さらに、平和、公正、従順なものです。また、憐れみと良い実りに満ち、偏見も偽善もありません。18 義の実は、平和をもたらす人たちによって平和のうちに蒔かれます。

4:1 あなたがたの中の戦いや争いは、どこから起こるのですか。あなたがたの体の中でうごめく欲望から起こるのではありませんか。2 あなたがたは、欲しがっても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争ったり戦ったりします。得られないのは、求めないからです。3 求めても得られないのは、自分の欲望のままに使おうと、よこしまな思いで求めるからです。4 神に背く者たち、世の友となることは神の敵となることだと知らないのですか。世の友になろうとする者は、自らを神の敵とするのです。5 それともあなたがたは、聖書が空しい言葉を語っていると思うのですか。私たちの内に宿った霊が、妬みに燃えるのです。6 しかし神は、それにまさる恵みを与えてくださいます。そこで聖書はこう語るのです。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお与えになる。」

福音書 マルコによる福音書 9章 30-37節

9:30 一行はそこを去って、ガリラヤを通過して行った。しかし、イエスは人に気付かれるのを好まれなかった。31 それは、弟子たちに教えて、「人の子は人々の手に渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」と言っておられたからである。32 弟子たちはその言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。

33 一行はカファルナウムに来た。家に着いてから、イエスは弟子たちに、「道で何を論じ合っていたのか」とお尋ねになった。34 彼らは黙っていた。道々、誰がいちばん偉いかと言い合っていたからである。35 イエスは座って、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」36 そして、一人の子どもを連れて来て、彼らの真ん中に立たせ、抱き寄せて言われた。37 「私の名のためにこのような子どもの一人を受け入れる者は、私を受け入れるのである。私を受け入れる者は、私ではなくて、私をお遣わしになった方を受け入れるのである。」